

かお・人・interview

2025年10月22日

部長

インタビュー



熊本県土木部長

菰田 武志氏

KOMODA Takeshi

熊本地震や豪雨災害からの創造的復興が着実に進んでいる熊本県。4月に就任した菰田武志土木部長は、災害からの復旧・復興、併せて、幹線道路のネットワーク整備や都市圏の渋滞対策、TSMC進出に伴うインフラ整備などに全力で取り組む姿勢を強調した。建設業界では、担い手確保が大きな課題であり、働き方改革や生産性向上を図る取り組みの重要性を訴える。

Q部長就任にあたっての抱負

本県は、平成24年7月の熊本広域大水害をはじめ、平成28年の熊本地震、令和2年7月豪雨といったさまざまな災害が発生しました。大規模災害を経験したことで、県民の命と暮らしを守ることが最優先であると改めて実感しています。そのため、創造的復興を加速するとともに、災害に強い郷土づくりに向けた社会資本整備を着実に推進していきたいと思っています。

併せて、県内全域において、防災・減災、国土強靱化の取り組みを加速するとともに、九州の縦軸、横軸となる幹線道路の整備や熊本都市圏の渋滞対策を重点的に進めます。建設産業を含む業界全体では、担い手不足など深刻な状況もありますので、担い手確保・育成にもしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

加えて、昨年TSMCの第1工場が稼働を始めて、現在第2工場についても整備が進められており、今後、半導体関連企業のさらなる集積が見込まれます。これに伴い、道路や下水道といった半導体生産拠点に必要な関連インフラも計画的、集中的に整備を推進していきたいと思っています。



▲熊本環状連絡道路「くす玉」式典

Q土木部の主要事業について

平成28年の熊本地震、令和2年7月の豪雨でそれぞれ甚大な被害を受けた益城町、人吉市において、それぞれの復興まちづくりの支援を行っています。益城町では、土地区画整理事業(28.3ha)と県道熊本高森線の4車線化(全体約3.8km、うち1.6kmが供用開始)

を進めており、熊本高森線は今年度の全線供用、土地区画整理では令和年度の事業完了に向けて、町と連携しながら取り組んでいます。また、人吉では、青井地区の土地区画整理事業(5.2ha)と国道445号の道路改築を進めており、令和10年度の事業完了を指しています。

加えて、令和2年7月豪雨で甚大な害が発生した球磨川流域では「緑の域治水」の理念のもと、流水型ダムをめざまざまな対策を国と県と一緒に取り組んでいます。いわゆる「氾濫を防ぐための対策」「被害対象を減らすための対策」「被害を軽減するための対策」という形でハード整備だけでなくソフト面も連動させながら、河川事業、砂防事業、治山事業(農林水産部)を組み合わせ進めているところです。

次に、道路事業では、今年4月に中九州横断道路「熊本環状連絡道路」が新規事業化されました。国と連携を図りながら、県内各地を結ぶ幹線道路ネットワークの整備を着実に推進してまいりたいと思います。

熊本都市圏の渋滞問題は、本県の喫緊の課題だと思っています。特に熊本市は、3大都市圏を除く政令指定都市の中で一番渋滞がひどいと言われています。熊本都市圏の渋滞解消に向け、県と熊本市では、短・中・長期的な取り組みを全力で行っているところです。短期対策として、令和7～9年度の3年間で30カ所の交差点改良を実施することとしており、中期対策として、10年以内に主要渋滞箇所226カ所のうち、80カ所の改善に向けて、道路整備などを強力に推進しています。また、長期的には熊本都市圏3連絡道路などを進めていきます。車の流れを良くする、車から公共交通への転換を促す、併せて、ピーク時の交通を分散する取り組み



▲九州高規格幹線道路概要図(R7.4月)

を行い、渋滞の改善につなげたいと考えています。

Q7年度主要事業概要

- ◇緑の流域治水の推進
 - 河川改修、砂防施設の整備
- ◇人吉市の復興まちづくりの推進
 - 青井地区の土地区画整理、
 - 国道445号の道路拡幅
- ◇益城町の復興まちづくりの推進
 - 土地区画整理、県道熊本高森線の4車線化
- ◇道路ネットワークの整備
 - 中九州横断道路、熊本天草幹線道路、九州中央自動車道等の整備

- ◇防災・減災、国土強靱化のためのインフラ強化
 - 道路・橋梁の老朽化対策、河川・砂防、港湾整備
- ◇半導体産業の更なる集積に伴う社会資本整備
 - 基幹道路整備、下水処理場の整備等
- ◇熊本都市圏の渋滞対策
 - 道路・交差点改良等

Q建設業界の課題への対応



▲防災・減災国土強靱化のためのインフラ強化
【大手川2火山砂防事業(芦北郡津奈木町)】

働き手、担い手不足は喫緊の課題です。昔は3K(きつい、汚い、危険)と言われ、それを少しでも改善するために、新4K(給与、休暇、希望、カッコいい)を実現し、選んでもらえる業界にしていかなければなりません。働きがい重要であり、建設業界の魅力をPRするため、働き方改革や環境改善など、地道に努力していくことが必要だと思います。

▶熊本天草幹線道路「新大矢野トンネル(仮称)」貫通式





▲緑の流域治水の推進【上原谷砂防激甚災害対策特別緊急事業（球磨郡球磨村）】

県内建設産業の方向性を示す「建設産業振興プラン」に基づき、業界と一緒に持続可能な発展に向けた取り組みを行っています。ワンデーレスポンスや4週8休、ウィークリースタンスなどを取り入れていながら、業界もそれを受け入れる環境づくりに努めているところです。若い人たちに選択され続ける業界になる必要があります。

求人活動で工業高校や農業高校のみならず、普通高校にも拡げている企業や、中学・高校生に迫力あるトンネルや橋梁現場を身近に体験できる見学会を行っている企業も多いようです。このように建設産業の重要性や魅力、イメージアップに関するPR活動を積極的に行い、業界を知ってもらうことが一番重要だと思います。

Q地域建設業界への要望、メッセージ

建設産業の皆さまには社会インフラにあたっての整備や維持管理はもちろんのこと、地震や豪雨など災害対応時から直ちに現場に駆け付けていただくことや、地域や社会の基盤、安全・安心の確保を担う上でまさに「地域の守り手」として、ご尽力いただいていることに改めて厚く感謝申し上げたいと思います。

また、建設産業は地域経済の雇用を支え、道路のネットワークや都市圏の渋滞対策、防災・減災強化などさらなる熊本県の発展を支えるために、重要な産業です。

50年後、100年後の熊本の発展のためには、県土を支える業界の皆さまの持続と発展が必要不可欠であり、人材確保・育成や生産性向上に向けた働き方改革などの課題にともに取り組んでいきたいと思っていますので、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。

Q趣味や健康法など

だいぶ年も取りましたので、健康は意識しているところです。ウォーキングを、目標としては1日1万歩をベースに頑張りたいと思っています。今の時期、昼は本当に暑すぎて歩くことはできませんが、夕食後にできるだけ歩けるときは歩いています。

趣味という趣味はありませんが、子どもたちも皆成人して独立し、今は家内と二人なので、できるだけ家内の意に添うように買い物には付き合っています。あとパトロールを兼ねて県内の道の駅を見たりしながら、ドライブを楽しんでいます。

プロフィール



R7年4月 現職

熊本県出身、59歳。

H元年4月 熊本県技術吏員

H30年4月 農林水産部水産局漁港整備課長

R2年4月 県北広域本部土木部長

R2年8月 土木部河川港湾局河川課長

R4年4月 企画振興部土木技術審議監

R6年4月 土木部道路都市局長官